

【資格・検定試験等の成績の活用の推奨】

入学志願者の能力・適性や学習の成果、活動歴等を多角的かつ客観的に評価する観点から、学部等の特性及び必要に応じた資格・検定試験の活用を推奨。

平成27年度大学入学者選抜実施要項からは、語学の資格・検定試験については、4技能を測ることのできる資格・検定試験を推奨するとともに、国際バカロレアの資格や成績の活用も新たに追記。

○平成27年度大学入学者選抜実施要項(関連部分抜粋)

第6 個別学力検査等

4 資格・検定試験等の成績の活用

(1) 入学志願者の能力・適性や学習の成果、活動歴等を多角的かつ客観的に評価する観点から、例えば、以下のとおり、学部等の特性及び必要に応じ信頼性の高い資格・検定試験等の活用を図ることが望ましい。

① 入学志願者の外国語におけるコミュニケーション能力を適切に評価する観点から、実用英語技能検定(英検)やTOEFL等、「聞く」「読む」「話す」「書く」の4技能を測ることのできる資格・検定試験等の結果を活用する。

② 入学志願者の優れた理数系の能力を適切に評価する観点から、国際科学オリンピック等の結果を活用する。

③ 基礎的・基本的な知識・技能に加え、「主体的に学び考える力」を育成する上で有益なプログラムとして国際的に評価されている国際バカロレアの資格や成績を活用する。

(2) 資格・検定試験等の成績の活用に際しては、下記第7の学力検査実施教科・科目及び試験方法等の発表の際にその旨を明らかにするとともに、具体的な活用方法(例えば、個別試験の成績に代えて当該試験等の結果を用いる場合における得点の換算方法等)を明らかにする。また、当該試験の結果の確認方法等について事前に実施機関に確認しておく。

大学入学者選抜における資格・検定試験等の活用

○平成25年度大学入学者選抜における資格・検定試験(語学関連)の活用状況

(試験別内訳)

区分	純計	推薦入試	AO入試	一般入試
国立	16 (19.5%)	10 (12.2%)	9 (11.0%)	0 (0.0%)
公立	18 (22.2%)	15 (18.5%)	8 (9.9%)	1 (1.2%)
私立	231 (40.0%)	181 (31.4%)	125 (21.7%)	33 (5.7%)
計	265 (35.8%)	206 (27.8%)	142 (19.2%)	34 (4.6%)

	推薦入試	AO入試	一般入試
英検	198 (26.8%)	137 (18.5%)	32 (4.3%)
TOEFL	135 (18.2%)	109 (14.7%)	27 (3.6%)
TOEIC	154 (20.8%)	123 (16.6%)	28 (3.8%)
その他	92 (12.4%)	59 (8.0%)	14 (1.9%)
計	206 (27.8%)	142 (19.2%)	34 (4.6%)

※下段は、それぞれの区分ごとの大学数(国立:82校、公立:81校、私立:577校、計:740校)に対する割合

※試験別内訳の「その他」には、GTEC、ケンブリッジ大学一般英語検定、IELTSや英語以外の外国語検定試験が含まれている。

スーパーグローバル大学創成支援

平成27年度概算要求額 77億円
(平成26年度予算額 77億円)

【背景及び目的】

経済社会のグローバル化が進む中、我が国が今後も世界に伍して発展していくには、大学の国際競争力向上と、多様な場でグローバルに活躍できる人材の育成が不可欠。そのため、徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し、我が国高等教育の国際通用性、ひいては国際競争力強化の実現を図る。

【事業概要】

世界トップレベルの大学との交流・連携を実現、加速するための新たな取組や、人事・教務システムの改革、学生のグローバル対応力育成のための体制強化など、国際化を徹底して進める大学を重点支援。

○トップ型 (13件)

世界ランキングトップ100を目指す力のある大学

○グローバル化牽引型 (24件)

これまでの実績を基に更に先導的試行に挑戦し、我が国社会のグローバル化を牽引する大学

10年後に在るべき大学の姿

国際競争力の向上

国際通用性の向上

大学院

◆「国際」を横串として
全学的な体制及び
学内文化を変革

徹底した
国際化
の取組

徹底した
教育改革
の取組

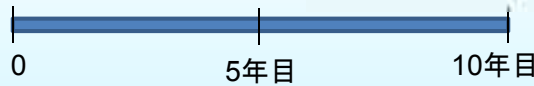
研究力強化に繋がる
教育力向上
の取組

学部

ガバナンス体制

教務体制

※それぞれの取組・活動を各年次にプロット。



第三次提言「これからの大学教育等の在り方について」(平成25年5月28日)を受けた取組状況

1. グローバル化に対応した環境づくり

○ スーパーグローバル大学創成支援(平成27年度概算要求77億円(前年同))

我が国の高等教育の国際競争力の向上を目的に、世界レベルの教育研究を行うトップ大学や国際化を牽引するグローバル大学に対して、制度改革と組み合わせ重点支援を行う。

○タイプA(トップ型): 13校

北海道大学	国立
東北大学	国立
筑波大学	国立
東京大学	国立
東京医科歯科大学	国立
東京工業大学	国立
名古屋大学	国立
京都大学	国立
大阪大学	国立
広島大学	国立
九州大学	国立
慶應義塾大学	私立
早稲田大学	私立

○タイプB(グローバル化牽引型): 24校

千葉大学	国立	国際基督教大学	私立
東京外国語大学	国立	芝浦工業大学	私立
東京芸術大学	国立	上智大学	私立
長岡技術科学大学	国立	東洋大学	私立
金沢大学	国立	法政大学	私立
豊橋技術科学大学	国立	明治大学	私立
京都工芸繊維大学	国立	立教大学	私立
奈良先端科学技術大学院大学	国立	創価大学	私立
岡山大学	国立	国際大学	私立
熊本大学	国立	立命館大学	私立
国際教養大学	公立	関西学院大学	私立
金沢大学	公立	立命館アジア太平洋大学	私立

スーパーグローバル大学創成支援採択校における 外部試験の学部入試への活用目標の例

○筑波大学(国立)

GTEC-CBT、TOEFL、TEAP等の4技能を問う外部試験を全学的に導入することとし、平成31年度時点で、入学定員の100%を、外部試験を活用した学部入試の対象とする目標を設定。

○金沢大学(国立)

国際学類の一般入試において、平成27年度入試から外部試験のスコア提出を認め、そのスコアがTOEFL iBT、TOEFL PBT、TOEIC、英検、IELTS等で一定の水準を超えている場合には、大学入試センター試験における英語の成績を満点と見なす。また、全学類において同様の活用を行うことを検討する。

○国際教養大学(公立)

既にTOEFL、TOEIC、IELTS、英検、国連英検、ケンブリッジ英検などを活用した入試を実施しており、今後TEAPやGTECなど他の外部試験の導入の可能性を検討する。

○立教大学(私立)

学内で実施する英語試験に代わり4技能を測定することが出来るGTEC-CBT、TOEFL iBT、IELTS、TEAP等のスコアを用いる一般入試の方式を、平成28年度から全学を対象に導入し、順次対象者を拡大する。

スーパーグローバルハイスクールの整備

急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、**社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養**を身に付け、将来、**国際的に活躍できるグローバル・リーダー**を高等学校段階から育成。

- 国際化を進める大学のほか、企業、国際機関と連携して、グローバルな社会課題を発見・解決し、様々な国際舞台で活躍できる人材の育成に取り組む高校等を指定

(平成26年度予算額 8億円)

- 質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を推進
- 指定期間：平成26年度より5年間
- 指定校：56校（内訳）国立4校、公立34校、私立18校
幹事校：筑波大学附属高等学校
- S G Hアソシエイト：54校（内訳）国立6校、公立27校、私立21校

◆目的：急速にグローバル化が加速する現状を踏まえ、社会課題に対する関心と深い教養に加え、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーを高等学校段階から育成する。

◆事業概要：国際化を進める国内の大学を中心に、企業、国際機関等と連携を図り、グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、グローバルなビジネスで活躍できる人材の育成に取り組む高等学校等を「スーパーグローバルハイスクール」に指定し、質の高いカリキュラムの開発・実践やその体制整備を進める。

指定期間：平成26年度より5年間

対象学校：国公立高等学校及び中高一貫教育校（中等教育学校、併設型及び連携型中学校・高等学校）

指定校数：1校あたり上限1,600万円、平成26年度は56校を指定

文部科学省

管理機関
(設置者)

国際化を進める
大学

企業、国際機関(OECD,
UNESCO等)、非営利団
体等

- 学校の指定(5年間)
- 指導・助言・評価
- 支援

指導・助言・評価

連携・協力

連携

人材、プログラムの提供

スーパーグローバルハイスクール (SGH) 平成26年度 指定校56校

【主な取組】

- グローバル・リーダー育成に資する課題研究(例:国際的に関心が高い社会課題)を中心とした教育課程の研究開発・実践(教育課程の特例の活用を想定)
- グループワーク、ディスカッション、論文作成、プレゼンテーション、プロジェクト型学習等の実施(英語によるものも含む)
- 海外の高校・大学等(ESDを通じたユネスコスクールを含む。)と連携した課題研究に関するフィールドワーク、成果発表等のための海外研修
- 帰国・外国人生徒の積極的受入れ、大学との連携を通じた外国人留学生とのアカデミックなワークショップ
- 大学との連携を通じた、課題研究内容に関する専門性を有する帰国・外国人教員の活用

【大学との連携】

- 課題研究に関する指導を行う帰国・外国人教員等の派遣や、大学生によるサポート
- 国際展開を担当する部署との連携を通じた海外研修等の企画・立案に関するノウハウの伝授
- 入試の改善による生徒の学習内容の適切な評価
- 単位認定を含む高大連携プログラムの提供

※なお、SGH事業の構想をより多くの学校に広めていく観点から、本事業を踏まえたグローバル・リーダー育成に資する教育の開発・実践に取り組む高等学校等(54校)を「SGHアソシエイト」として位置づけた。

グローバルな社会課題を発見・解決できる人材や、グローバルなビジネスで活躍できる人材(国際機関職員、社会起業家、研究者等)の輩出の経営者、政治家、研究者等の輩出

スーパーグローバルハイスクール指定校(平成26年度 全56校)

兵庫県 兵庫県立姫路西高等学校 テーマ:都市、ビジネス、持続可能な社会、歴史・観光 神戸市立葺合高等学校 テーマ:子供、世界の共生(人権、環境、経済) 関西学院高等部 テーマ:国際協力(国連、JICA、赤十字)	大阪府 大阪府立北野高等学校 テーマ:広告比較、ビジネス、防災、労働力の移動、東南アジア 大阪府立三国丘高等学校 テーマ:ビジネス、国際協力、持続可能な環境・地域開発 関西大学高等部 テーマ:持続可能な地球環境(社会、人間、自然、安全)	山梨県 山梨県立甲府第一高等学校 テーマ:地域、ワイン、第一次産業 京都府 京都府立嵯峨野高等学校 テーマ:環境(地球、生活、文化) 京都市立堀川高等学校 テーマ:地域経済、観光、素朴な技術 立命館宇治中学校・高等学校 テーマ:ソーシャルビジネス、CSR、地域文化発信 立命館高等学校 テーマ:貧困撲滅、災害防止・対策	長野県 長野県長野高等学校 テーマ:クロスエリア型観光戦略 岐阜県 岐阜県立大垣北高等学校 テーマ:国際開発、ビジネス、環境エネルギー、医療、比較教育	富山県 富山県立高岡高等学校 テーマ:地域、環境、文化、観光 石川県 金沢大学人間社会学域学校 教育学類附属高等学校 テーマ:環境、安全保障、経済 福井県 福井県立高志高等学校 テーマ:東アジア、経済、言語、教育、貧困、食生活・住環境、工学・技術	北海道 北海道登別明日中等教育学校 テーマ:農業、TPP、食糧、環境、経済 北海道札幌開成高等学校 テーマ:地域、雪、環境、読書 札幌聖心女子学院高等学校 テーマ:共生(人、自然)、環境
奈良県 奈良県立敬尚高等学校 テーマ:観光・歴史遺産、国際協力、生命・環境 西大和学園中学校高等学校 テーマ:アジア、貧困 山口県 山口県立宇部高等学校 テーマ:地域、ビジネス、国際貢献 徳島県 徳島県立城東高等学校 テーマ:地域、ビジネス、CSR 愛媛県 愛媛県立松山東高等学校 テーマ:地域、ビジネス、共生、持続可能な社会	滋賀県 滋賀県立守山中学校・高等学校 テーマ:地方自治、法と社会規範、生態系保全 鳥根県 鳥根県立出雲高等学校 テーマ:国際政治・経済、環境・エネルギー・食糧、多文化共生 岡山県 岡山県立岡山城東高等学校 テーマ:経済、国際貢献、環境、文化 広島県 広島女学院中学高等学校 テーマ:平和、原爆、核兵器、基地	愛知県 愛知県立旭丘高等学校 テーマ:アジア、歴史、経済、共生 名城大学附属高等学校 テーマ:地域、ビジネス、外国人、共生 三重県 三重県立四日市高等学校 テーマ:環境、教育、文化、法・福祉・人権、医療、ボランティア、ビジネス	群馬県 群馬県立中央中等教育学校 テーマ:国際協力、宗教、国連、経済、ESD、環境、文化 高崎市立高崎経済大学附属高等学校 テーマ:地域、企業の海外戦略 埼玉県 埼玉県立浦和高等学校 テーマ:環境、安全保障、普遍的価値 筑波大学附属坂戸高等学校 テーマ:インドネシア、持続可能な開発、森林保全、BOP	千葉県 渋谷教育学園幕張高等学校 テーマ:食、生態系、安全、遺伝子 東京都 渋谷教育学園渋谷高等学校 テーマ:人間の安全保障(平和、人権) 佼成学園女子中学高等学校 テーマ:多民族社会、平和的発展 品川女子学院 テーマ:女性、起業マインド 国際基督教大学高等学校 テーマ:多文化共生、アジア・アフリカ お茶の水女子大学附属高等学校 テーマ:国際協力、ジェンダー、経済、環境	青森県 青森県立青森高等学校 テーマ:地域、観光、ビジネス 宮城県 宮城県仙台二華中学校・高等学校 テーマ:世界の水問題(北上川・メコン川の比較) 茨城県 茨城県立土浦第一高等学校 テーマ:生物資源、ビジネス、起業 千葉県 早稲田大学高等学院 テーマ:多文化共生、外国人問題 順天高等学校 テーマ:アジア太平洋地域、教育的支援活動 昭和女子大学附属昭和高等学校 テーマ:女性、キャリアデザイン 玉川学園高等部・中部 テーマ:貧困、人権、環境、外交、国際協力 筑波大学附属高等学校 テーマ:オリンピック・パラリンピック、環境、災害、政治、経済、外交
神奈川県 神奈川県立横浜国際高等学校 テーマ:ビジネス、平和、環境 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校 テーマ:環境、持続可能な開発 公文国際学園高等部 テーマ:国際機関、途上国への教育支援 静岡県 静岡県立三島北高等学校 テーマ:地域、発展途上国、水					

高等学校における資格・検定試験等の活用事例

○スーパーグローバルハイスクールにおける活用

スーパーグローバルハイスクールでは、すべての学校が、課題研究を通じた学習成果として「卒業時における生徒の4技能の総合的な英語力としてCEFRのB1～B2レベルの生徒の割合」を成果目標の1つに挙げている。

【資格・検定試験の活用例】

- ・ お茶ノ水女子大学附属高等学校（TOEIC、TOEFL、IELTS等を活用）
- ・ 山口県立宇部高等学校（TOEFL、英検を活用）
- ・ 西大和学園高等学校（英検、TOEFL、GTEC等を活用）